教育広報

かけはし

第57号　平成14年12月19日発行
千代田区教育委員会

番町小　市ヶ谷駅前

昌平小　秋葉原駅前

お茶の水小　お茶の水駅前

麹町小　議員会館前

いずみこども園　学校通り

麹町中　プリンス通り

主な記事

☆ 千代田区の中等教育将来像

☆ 学校週五日制における
子どもたちの休日の過ごし方

“ポイ捨てはやめよう”
“生活環境条例にご協力お願いします”

子どもたちが環境美化活動を通じて、
「きれいなまち」を呼びかけています。

R100
古紙配合率100%再生紙を使用しています

新しい時代に向けて、新しい教育の幕開け
千代田区の中等教育将来像

教育委員会では、平成12年8月の中学校教育検討会報告を受け、新たな中等教育の具体化を図るため、本年2月に「千代田区の中等教育将来像素案」を作成しました。この素案の内容について、保護者、学校関係者をはじめ、広く区民の皆さんを対象に説明会を開催し、多くのご意見・ご要望をいただきました。

このたび、それらの貴重なご意見をふまえた検討をもとに、素案の内容に修正を加え、「千代田区の中等教育将来像」をまとめました。今後、千代田区における中等教育を考えていくうえで基本となるものですので、ご理解をお願いします。

問合せ 教育計画担当課

将来像概要

Ⅰ 千代田区における中等教育改革の方向

1 日本の未来を担う人材育成

日本と世界が激しい変化に直面するなか、国家の発展、世界貢献のため、明るい未来を切り拓いていく担い手となる人材の育成が重要であり、健全な社会を築く観点からも教育への期待は大きくなっています。

2 千代田区の教育改革

本区は近代教育発祥の原点ともいうべき地域で、教育に力を注いできました。平成10年以降は、教育の目的やシステムの検討を進めてきました。中等教育改革の中心施策は、中高一貫教育校の新設、特色ある学校づくりなどです。

3 公立学校の使命と中高一貫教育

私立学校への進学者が多いのは、区立中学校の魅力の減少と受け止め、公立学校における教育の復権に努めます。高校が実質的には義務教育化している状況にあり、中高一貫教育への希求が高まっていることから、本区は、未来の人材育成に向け、基礎的自治体としての役割を果たすために、区立の中等教育学校を設置します。

Ⅱ これからの中等教育のあり方

1 千代田区の中等教育に共通する目標

(1) 創意工夫を生かした教育活動を通して、社会性や人間性を育成し、豊かな心の育つ学校

(2) 一人ひとりの個性をより重視し、わかる授業で基礎的な学力の向上に重きをおく学校

(3) 運動やスポーツに親しみ、生涯にわたり充実した生活を送ることができる、たくましい心と体を身に付ける学校

2 中等教育における適正規模の基本的な考え方

(1) 集団の中での教育の充実

① 人との関わりの中で社会性や豊かな人間性を育てる

※一定規模以上の集団やクラス替えにより切磋琢磨（せっさたくま）し、自己を高める機会を増やします

② 集団活動（授業や学級活動等）の活性化により、自己の能力や適性を磨く

(2) 教育指導と学校運営の充実

① 多様な教育指導の展開

※選択幅の広い教育に対応し、指導力を維持・向上するための教員数の確保による多様な教育指導の展開

② 校務分掌（教員が担当する授業以外の事務）の軽減

千代田区の中等教育将来像の全文は「千代田区ホームページ」http://www.city.chiyoda.tokyo.jpでご覧いただけます。

Ⅲ 区立中等教育学校の新設

"個に応じた指導により高い志を持った生徒を育てる"

広く社会に貢献する高い志と使命感を抱き、豊かな人間性と創造性をそなえ、国際社会で活躍できる人間を育成します。

◇平成18年4月開校

◇一つの学校として一体的に中高一貫教育を行う。

◇母体校は、都立九段高校と区立九段中学校、場所は九段高校の敷地及び隣接地の予定です。

【学校像】

6年間を見通した教育課程の中で、自己の能力・適性を発見し、創造的・意欲的に行動できる人間を育成する学校

【育てたい生徒像】

「自分で判断し決定する力」「自分の志を見出し実現に向けて努力する力」を身に付けた生徒

1 教育内容の特徴（以下のような特色ある教育を念頭に、今後、教育内容の検討を進めていきます。）

(1) キャリア教育の徹底

○キャリアガイダンスの実施（職場訪問、職業体験、先達の話を聞く会、大学・専門学校等への体験入学、資格取得）

○キャリアカウンセラーによる進路学習

(2) 進学指導の徹底

○進学希望に適合したカリキュラム編成

○進学セミナー等、進学指導体制の整備

(3) 国際理解教育の充実

○伝統文化の学習

○海外交流、中・短期留学の実施

(4) コミュニケーション能力の向上

○発表学習、ディベート学習

○語学力の向上（数か国語の選択授業）

(5) IT教育の展開

○区内産業界、企業等の人材活用による専門的講座の設置

○情報教育を特色とする在来型中学校とのネットワーク化

○学校と家庭・生徒相互の情報ネットワーク化

(6) 充実した個別指導の導入

○少人数指導、ティームティーチング（複数教員による学習指導）及びティーチングアシスタントの導入

○個人の進路に応じた多様な選択科目の設置

○大学関係者等による専門・探究科目の設置

(7) 体験をとおして身に付ける教養教育の推進

○土曜講座の開設（文化・スポーツ）

○校外施設を活用しての滞在型学習の実施

(8) 教育環境の整備

○特別教室、体育施設等の充実

○ランチルームの整備

2 学校規模及び入学条件

(1) 全日制課程　単位制普通科（後期課程）

2―2―2型の節目（1・2年＝基礎学力養成期、3・4年＝充実期、5・6年＝発展期）

(2) 24学級規模（1学年4学級×6学年）、1学年150～160名、全校生徒900～960名程度

(3) 二学期制（1学年を前期、後期に分ける）

(4) 6年間を通して在学すること

(5) 入学者の選考では、面接・作文等により入学者の適性を検証

※入学者の「千代田区民と区民以外の都民の比率」は、1対1を目途

Ⅳ 在来型中学校の充実

学校数は将来的に2校設置（麹町、神田の各地区に1校）、今後各校の特色化を図り、さらに充実・発展させていきます。

1 共通の基盤

(1) 学力の向上

○基礎・基本の確実な定着と、個に応じた指導の充実

○教員の指導力向上と授業改善

(2) 豊かな人間性の育成

○奉仕活動や体験活動の促進

○道徳教育の充実

(3) 国際社会で活躍できる力の育成

○国際理解教育の推進

○情報教育の推進

○環境教育の推進

2 各校の特色例

○国際理解教育

○情報教育

○福祉教育

3 区域外就学生徒に関する考え方

区域外就学は例外的な就学形態であることから、今後は抑制していく方向で具体的な方法を検討

※現在は中学校5校全体で45.5％（526人・平成14年5月1日時点）

4 学校選択制の実施（通学区域の弾力化）

平成15年度の入学者から、千代田区全域を対象に学校選択制を実施し、特色ある学校づくりを推進

学校週五日制における子どもたちの休日の過ごし方

一、調査の概要

①目的

学校週五日制が行われて半年が経過しました。「家族で一緒に過ごす時間や親子の会話が増えた」「平日の生活が忙しくなった」等子どもたちの生活にさまざまな変化が起きているとの声をあちこちで耳にします。子どもたちの生活は、どのように変化しているのでしょうか。児童・生徒の休日の過ごし方の様子を調べると共に、保護者の五日制に対する考え方等についてアンケート調査を実施しました。

②方法

・質問紙法によるアンケート調査
・各学校、調査学年（小学校二・四・五年、中学校二年）の一クラスの児童・生徒とその保護者を対象として実施
・回答者数
小学生636名、中学生159名
・平成十四年十月末実施

③アンケート項目概要

児童・生徒アンケート概要

1. 休日をどのように過ごしていますか
2. 休日の過ごし方でいちばん多かった過ごし方は何ですか
3. 過ごし方が多かったわけは何ですか
4. 休日はおもに誰と過ごしていますか
5. 学校のある日と比べて起きる時間や寝る時間に変化がありましたか
6. 学校のある日と比べて休日は寝るまで何をしていることが多いですか
7. 学校で行われているふれあいスクールに参加したことがありますか
8. 参加したことがある人はどんな教室に参加しましたか
9. ふれあいスクールに参加した感想を書いてください
10. ふれあいスクールで「こんな教室があればいいな」と思うものを書いてください

保護者のアンケート概要

1. 土曜日が毎週休みになったことについてどう思いますか
2. そう思うわけは何ですか
3. 土曜日が毎週休みになってお子さんの生活の様子に変化がありましたか
4. ふれあいスクールについてどのようにお考えですか
5. 土曜休みになって家庭や地域の果たす役割について考え方に変化がありましたか

二、児童・生徒のアンケート結果より

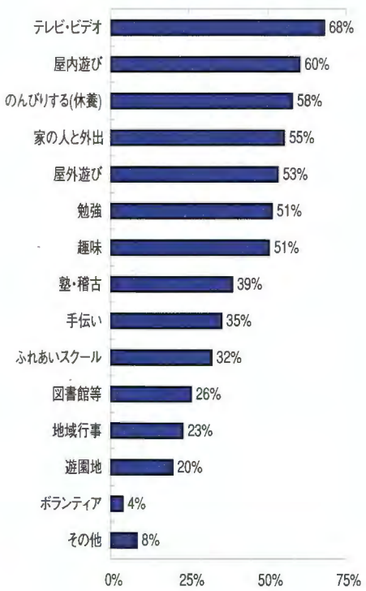
休日は好きなことをして楽しんでいる

質問1「休みの日をどのように過ごしているか」を複数回答で調査したところ、左のグラフのように、テレビ・ビデオを見て過ごすがいちばん多く、テレビゲームをしたり漫画を読んだりする屋内遊び、のんびりする(休養)がそれに続いています。

次に質問2で、「いちばん多い過ごし方は何か」を調べたところ、「屋外で遊ぶ（スポーツ等）」15%、「買いものや旅行に家の人と出かける」13%、「のんびりする」13%、「屋内で遊ぶ（テレビゲーム・漫画等）」12%でした。

さらに質問3で、「その過ごし方が多かったわけ」は、「好きだから」29%、「楽しいから」26%、「休みにしかできないことだから」21%でした。

質問1
小中学生の土曜休日の過ごし方
（複数回答）



質問1から質問3までの結果を見ると子どもたちは休日でなければ出来ないことを楽しんでいることがわかります。

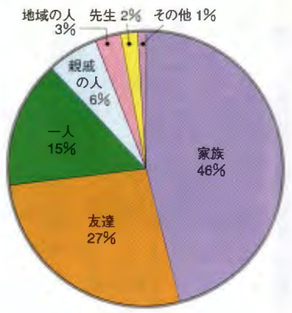
このことは、「子どもを家庭や地域に返してゆとりのある生活をさせたい」という学校週五日制導入の趣旨にも適う結果であると思います。

「ボランティア活動をする」「地域行事に参加する」が少ないのは、今後への課題でもあると思います。

休日は家族や友達と過ごしている

質問4「休日はおもに誰と過ごしているか」の調査から、次頁円グラフのとおり、小・中学生の約半数が家族と過ごし、友達を加えると実に73%の子どもが最も身近な家族・友達と過ごしていることがわかります。

質問4 休日を主に誰と過ごしているか



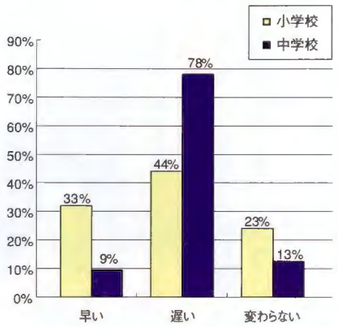
保護者のアンケート質問1の記述を見ると「一緒に休めるのでほっとしている。家族の一員としての役割を伝える場が出来て良かった」「家族とのふれあいの時間や会話が増えた」等休日を肯定的に受け止めているものが多く見られました。その一方で「土曜休みのない親の子は、どうしたらよいか」「二日間何をしようかという週末は、親の負担である」等の問題も指摘されました。

休日はのんびりゆったり過ごしている

質問5「学校のある日と比べて休日の起きる時間や寝る時間に変化があるか」を調べたところ、小学生と中学生との間には起きる時間について大きな違いが見られました。

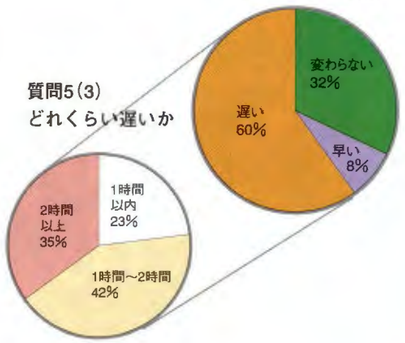
起きる時間が早いと答えた小学生が33%あるのに対し、中学生はわずか9%でした。起きる時間が遅いと答えた小学生が44%であるのに対し、中学生は78%でした。

質問5（1） 起きる時間



一方、寝る時間については、質問5(2)(3)のグラフを見ると小中学生とも60%の子どもたちが学校のある日に比べて遅く、そのうち三人に一人は、二時間以上遅い時刻まで起きています。

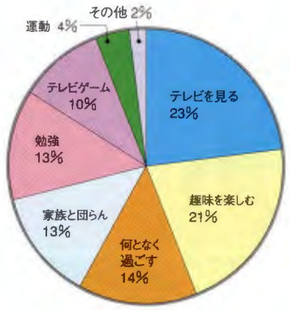
質問5(2) 寝る時間



さらに質問6で、「寝るまで何をして過ごしているか」を調べたところ、「テレビを見ている」が23%、「自分の趣味を楽しんでいる」が21%、「ただ何となく過ごしている」が14%、「家族と団らんをしている」「勉強をしている」がともに13%、「テレビゲームをしている」が10%という結果でした。

起きる時間・寝る時間ともゆっくりと、また寝るまでの時間も自分の趣味を楽しんだり、家族と団らんしたりと休日をのんびり、ゆったり過ごしている様子が明らかになりました

質問6 寝るまで何をして過ごしますか



ふれあいスクールについて

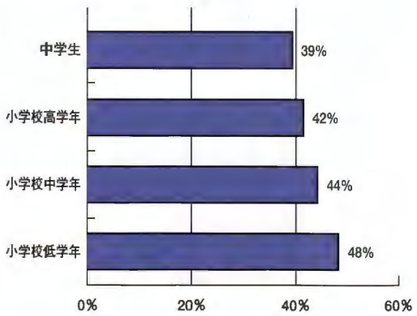
質問7「学校で行われているふれあいスクールに参加したことがあるか」調査したところ、下記グラフのように、ふれあいスクールの参加状況は学年が進むにつれて次第に減少しています。

次に質問8で「どんな教室に参加したか」調べたところ学習34%、スポーツ29%、パソコン17%でした。さらに、質問9の子どもたちの感想をみると、「おもしろかった」「楽しかった」という肯定的なものがほとんどでした。

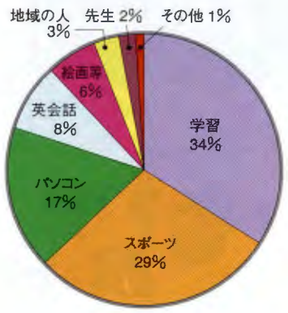
小学校四年生の感想

・学習相談教室なので、勉強のわから

質問7 ふれあいスクールの参加状況



質問8 どんな教室に参加しましたか



ないところを聞き合って学習できるのでうれしい。

小学校五年生の感想

・テニス教室は時間も長く専門の先生がとてもていねいに教えてくれるので、テニスってこんなにおもしろいものだとわかった。

中学二年生の感想

・普段の授業ではわからないことがあっても恥ずかしくて質問できないけれど、土曜日の学習では質問しやすいし解き方まで教えてくれるのでやる気が出る。

質問10「ふれあいスクールには、こんな教室があればいいな」という小学生の記述を見ると、左のような結果でした。

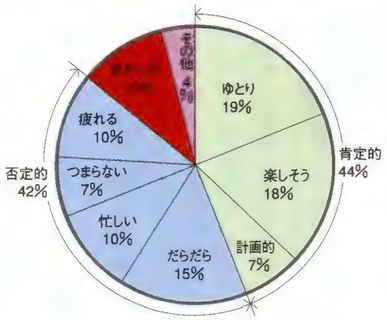
> 質問10
> 第1位、スポーツ（バスケット・テニス・サッカー・水泳等）の教室
> 第2位、家庭科的なもの（料理・手芸・編み物・お茶）の教室
> 第3位、図工的なもの（絵画・工作・折り紙等）の教室
> 第4位、理科的なもの（実験・星座観察・植物・動物とのふれあい等）の教室
> 第5位、囲碁・将棋

三、保護者アンケート結果より

保護者のアンケート質問1で「土曜日が毎週休みになったことについてどう思うか」たずねると、「賛成・どちらかといえば賛成」が約43%、「反対・どちらかといえば反対」が約44%でした。

次に質問3で「土曜日が毎週休みになって子どもの生活の様子に変化があったか」を聞いたところ、左記のグラフのように肯定的に受け止めているものが44%、否定的に受け止めているものが42%で、前の質問の「賛成・どちらかといえば賛成」「反対・どちらかといえば反対」とほぼ同様の結果でした。

保護者への質問3
保護者から見た子供の生活の変化



質問4「ふれあいスクール」について自由意見を求めたところ、小学校で340名、中学校では52名の意見が出され、そのうち、今後も参加させたいなどの意見が小学校では5割、中学校では7割ありました。一方、「家庭の行事や地域のクラブと重なって参加させにくい」「土曜日は休みなのだからスクール等開かなくてよい」などの意見も出されました。

質問5「家庭や地域の果たす役割について考え方に変化があったか」自由意見を求めたところ、小学校では256名、中学校では33名の意見がありました。そのうち、「家庭や地域での役割が明らかになった」というような肯定的な考え方が小学校では6割、中学校では4割ありました。一方、「地域で子どもを育てるという意識が薄い」「他に任せていこうとする親がいる」などの回答も出されました。

四、まとめ

今回の調査を通じて、子どもたちにとっての環境づくりが着実に進められていることがわかります。

今後さらに学校週五日制実施の趣旨を踏まえ、子どもたちが主体的に生活できるように、家庭・地域・学校の融合連携を図って行くことが必要であると考えます。また、子どもや保護者への情報提供の工夫が重要であるとも考えています。

そこで、区教育研究所では、本年度中に学校週五日制対応子ども向けガイドブック「千代田区を知ろう」を作成し、小学校3年生から中学校2年生までを対象に配布する予定です。

【アンケートに関する問合せ】
教育研究所 TEL 3256—8446

内川小（五城目町）との交流 ～昌平小～

10月4日、昌平小に秋田県五城目町から内川小学校の児童が訪れ、お互いの学校紹介や合唱、踊りなどを通じて交流を深めました。

「内川ささら踊り」をフェスで披露 10/5（内川小）

昌平小4年生の「花笠踊り」

夢の課外授業

夢のある人材の育成を目的とする二十一世紀倶楽部主催
「夢の課外授業」が、番町小・富士見小・昌平小で開催されました。

10/26 富士見小

KONISHIKIさん　好きな文字は"力"。自分だけの力で生きているわけじゃない。今の自分はたくさん人から"力"を借りたおかげ。友だち、学校、勉強、家族、みんな大切にしてね。学校はすごく楽しかった。いっぱい思い出作った。

10/4 番町小

舞の海さん　今一番やりたいことを自分で見つけ、それに向かって挑戦しよう。自分で決めたことは他人のせいにできないし、がんばれるよ。私はあきらめないで相撲を続けたことがよかった。

11/11 麹町小　「PRO&KIDS "Let's Play Baseball"」
主催 読売巨人軍　講師 **宮本和知**さん

宮本和知さん　わからないことはどんどん先生に聞こう。失敗しても恥ずかしくないよ。失敗したら反省しよう。でも後悔はしない。くよくよするより、チャンスをつかまえよう。前向きに考えよう。

11/29 昌平小

工藤公康さん　スポーツも勉強も「必ずできる」ということを忘れないで。あきらめてしまったら、そこで止まってしまうよ。自分の夢はいつまでも忘れずに持ち続けてほしい。

競技の進行を支えた生徒達

10月3日国立霞ヶ丘競技場
小・中学校 陸上競技大会

きょういく随想

「子育ては親育ち」

～みんなが支え合って～

千代田区立富士見幼稚園長
佐瀬　スミ子

去る日、友人Mさんから電話。「娘が二人の子（Mの孫）を連れて買い物に行った時のこと。四歳のA児のポケットにハムタローのシールつき菓子が入っているのに気付き、驚き、父親にも話して、A児に善悪の判断の躾をした。が、若い両親は“これで済ませていいのか”と育児に自信を失い、実家のMに相談してきた。」という。

Mは、若い母親がA児への愛情をもって叱ったこと、悪い行いを直ちに正すよう諭したこと等は適切だったと励ますと共に、A児は妹の出生で情緒が不安定になり、淋しい思いを抱いていたのではないか、A児には今まで以上に気遣いし、目を向けてあげてねと教えたそうだ。

二人の孫の祖母としての友人Mの助言は十分だったと思いました。その上で私の考えも伝えて電話を終えました。A児への気遣いの仕方です。

例えば、赤ちゃんが眠っている時にはA児を膝に抱いて絵本を読んであげる、話し合う。また赤ちゃんの世話をする時、A児にも同じようにしたことを話し、おむつなどを持って来るよう手伝わせ、兄としてのプライドを持たせるよい機会になるのではないかと…。その後、この小さな事件を契機にA児は、ずっと明るい笑顔で遊ぶようになったそうです。

昔から「子持ち夜半分」と言われるように子育ては大変な仕事です。愛情をもって懸命に子育てしてもなかなか思い通りにはいかないもの。そんな子どもを前にして、多くの親は戸惑い苛立ち、不安になり自信喪失となります。どうしたらよいのでしょうか。

前例M一家の場合、母親がA児を温かく包み、その外側をもう一層包んでいるのはA児の祖母です。それは父方の祖母でも園の先生でも近隣の方でも、母親の友達同士の包み合いでもよいのです。子どもを真ん中にして母親が包み、その外をまた支える支え手のいることが今の「子育て」には必要なのです。みんなが側にいて、周りにいて、お互いに知恵を出し合って子どもを包み、健やかに育つよう支援し合っていくことが欠かせません。子どもがジグザグに成長・発達していくのと同様、親の方も、子の思いや接し方を試行錯誤して学んでいく、それが大事なのです。

子育ては苦労の多い反面、子どもとの心の結びつきも深まり、様々で豊かな喜びも経験できます。そして、同時に、子育ては親自身にも人間としての成長をもたらしてくれるのです。

させすみこ
千代田区立幼稚園長会長

きょういく随想

編集後記

秋は、収穫の季節です。この秋は、教育委員会にとって特に大きな収穫がありました。一つは、10月に都立九段高校の区への移譲が決まり、区立中等教育学校の設立に向けた動きが始動したことです。もう一つは、本号で掲載した「千代田区の中等教育将来像」が、検討開始から4年余りの歳月を経て、11月末に集大成したことです。この間検討に携わった方々や、ご意見をいただいた学校関係者や区民の皆さまに心から感謝したいと思います。

しかし、将来像の完成は、中等教育改革推進のスタート地点にすぎません。教育委員会を挙げて、区立中等教育学校の設立や、在来型中学校の充実に向けて取り組んでいかなければなりません。

季節はすでに冬、先日は12月としては11年ぶりの積雪があり、厳しい冬の到来を予感しました。でも、冬が厳しいほど春は美しく感じられるものです。

「かけはし」についてのご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。次号かけはし58号は3月発行予定です

教育広報「かけはし」第五十七号
平成十四年十二月十九日発行
編集発行／千代田区教育委員会
〒102-8688　千代田区九段南1-6-11
☎(3264)2111 内線3115